

ピア星置町内会連合会で構成している星置地区連合町内会連絡協議会のお祭りとしてスタートしました。お祭りの成功に向け、準備を進めてきた「手稲山口運河まつり実行委員会」事務局の伊澤さんと真鍋さん。



▲木村茂夫さん宅から運ばれ、運河に降ろされる運上船。大丈夫？

▼船体の点検を行っています



昨年も運上船登場！



▲見つかったひび割れを念入りに修理する木村さん

▼子どもたちも大喜び



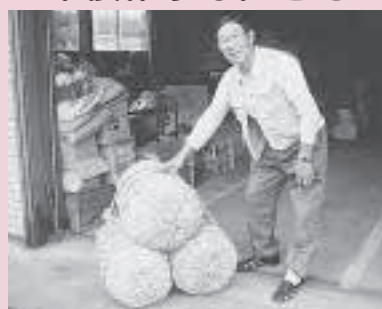
「このお祭りも以前は、三つの連合町内会の共催ということになっていましたが、昨年から新たに実行委員会を立ち上げ運営していくこととなりました。地域に根差した「ふるさとのお祭り」として長く続けていくためには、たくさんの方の地元の人たちが参加することが大切だと思っただけです」と語る伊澤さん。

真鍋さんは、お祭りには欠かせない出店について語ります。「これまで専門の業者が入っていましたが、昨年は地域の個人やグループでの出店を募集しました。お祭りは住民手づくりで、来てくれた子どもたちが自分のお小遣いで楽しめるようにしなければと思ったからです。手稲山口も星置も子どもたちにとってはふるさとですし、このお祭りがふるさとの思い出になってくれればと思うのです」。実行委員会の皆さんによる手づくりのお祭りは、地域のまちおこしであるとともに、子どもたちの「ふるさと」の思い出づくりでもあるようです。

手づくりのお祭りは 昨年も大成功

昨年九月二日(日)、お祭りの当日、朝早くから会場の準備が行われていました。実行委員会の皆さんの手でテントや出店の設営が手早く進めら

米俵作りは任せて



▲運上船に積まれている米俵を作った手稲山口運河まつり実行委員会副会長の高橋健二さん



▲米俵の外側の部分を編むための自作の道具を前に、使い方を説明する高橋さん。「昔は一日10枚は編んだものだよ。上手に俵の形にするのは難しいね」

れていきます。

運河には米俵を載せた運上船(物資を運ぶための船)が浮かべられ、お祭りの雰囲気も盛り上がってきました。

このお祭りでは、すっかりおなじみになった運上船。身近にある山口運河が、かつて物資の輸送手段として使われていたことを子どもたちに伝えていきたい、との考えから生まれたものです。ちょうど銭函で磯舟を寄付してくれる人がいたため、これを手入れし、昔ながらの運上船に仕立て上げました。

また、運河に架けられた橋の複製は山口県岩国市の錦川にかかる錦帯橋を模して作られたもので、手稲山口を開拓した山口県出身の先人をしてのんだものだそうです。

午前十時にスタートしたお祭りは、

各アトラクション、出店共に大盛況。運上船も子どもたちを乗せてひっきりなしに運河を往復しました。日が傾くころ、お祭りは好評のうちに終了しました。会場にはおじいちゃんやおばあちゃんに手を引かれた子どもたちの姿が多く見られ、このお祭りが世代を超え、地域に根差したものに成長していることを実感させます。

一つの役割を終えた山口運河。しかし、現在、地域の熱意ある人たちの力で「ふるさと」のシンボルとしての役割を担っています。

今月は街のにぎわいの「請負人」たちを紹介しました。街を活気あるものにして、自ら行動するパワーを感じることが出来ます。「にぎわい」は自ら作りだしてこそ価値あるものではないでしょうか。